

ESPEC

環境マネジメントレポート 2000

企業概要、環境マネジメントレポートの対象範囲

1

第1章. 緒言

- 1. 経営者の声明 4
- 2. 経営理念 5

第2章. 環境マネジメントシステム

- 1. 環境マネジメントシステム全般 6
- 2. 環境マネジメント体制 7
- 3. 事業活動と製品・サービスの環境影響評価 9
- 4. 法規制およびその他の要求事項 9
- 5. 目標 10
- 6. 取引先への対応 10
- 7. 教育の現状と計画、資格 11
- 8. 環境マネジメントシステム監査 11
- 9. 緊急事態への準備 11

第3章. 環境パフォーマンス

- 1. 物質フロー 12
- 2. 主要項目推移 13
- 3. 製品への取り組み(開発設計段階での取り組み) 15
- 4. 生産活動・物流への取り組み 17
- 5. サービスへの取り組み 19
- 6. 製品リサイクルへの取り組み 20
- 7. 環境改善事業への取り組み 21
- 8. 広報・啓発・コミュニケーション活動 23
- 9. オフィスにおける環境保全活動 24
- 10. 社会貢献 25
- 11. 環境会計 28
- 12. 環境負荷量(水質管理・騒音) 29
 - 福知山工場 29
 - 宇都宮テクノコンプレックス 29
 - タバイエスペックサービス 29
 - タバイ環境設備・大東事業所 29
- 13. エスペックグループの環境年表 30

アンケート

- 編集後記 33

屋久島 奉行杉

屋久島白谷雲水峡、標高820m。
屋久島の奉行杉は、歴史を物語る
苔を身に纏い、雄大な自然の中に、
そびえ立っています。
樹高24m、周囲8.5mのこの杉は、
大自然の過酷な生存競争に耐え、
今も成長を続けているのです。

企業概要

タバイエスペックって？

私たちが日頃使っている電気機器・自動車・繊維・医薬品・食品などあらゆる工業製品は、さまざまな気象環境のもとで正常に機能し品質が維持されなくては使うことができません。ここで活躍するのが、タバイエスペックの「人工環境創造力」から生み出された、環境試験機器やシステムです。

さらに、タバイエスペックの「人工環境創造力」は、生物の組織培養や保存といったバイオメディカル分野・植物生産システムをはじめとする未来の農業分野にも貢献し、「環境を守る立場」から「環境を創り、活かす立場」へと活躍のステージを拡げていきます。



タバイエスペック株式会社 本社(大阪市)



福知山工場(京都府福知山市)



宇都宮テクノコンプレックス(栃木県宇都宮市)



タバイエスペックサービス株式会社
(大阪府寝屋川市)



株式会社タバイ環境設備
(大阪府大東市)

製品及び事業例

環境試験器



恒温(恒湿)器 プラチナスKシリーズ



組立式恒温(恒湿)室 ビルドインチャンバー



冷熱衝撃装置 TSAシリーズ



恒温器(熱処理器)パーフェクトオープン

半導体関連機器



ダイナミック/モニタードバーンインシステム

理化学機器



恒温恒湿器

バイオ・メディカル機器



低圧低温環境シミュレーター

アグリシステム



環境制御温室

タバイ エスペック 株式会社 概要

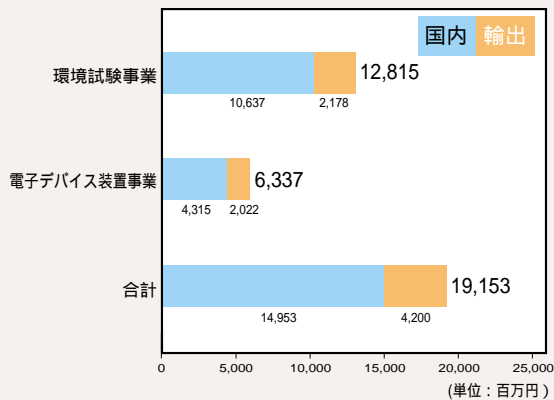
会社概要(平成12年3月31日現在)

創 業	昭和22年(1947年)7月25日
設 立	昭和29年(1954年)1月13日
資 本 金	67億7,890万円
発行済株式総数	23,499,894株
売 上 高	191億5,355万円
従 業 員 数	589名(正社員)ほか(嘱託および準社員58名)
事 業 所	本社(大阪)・東京本部 東京本部横浜オフィス
工 場	福知山・宇都宮
環境試験センター	福知山工場・宇都宮テクノコンプレックス内

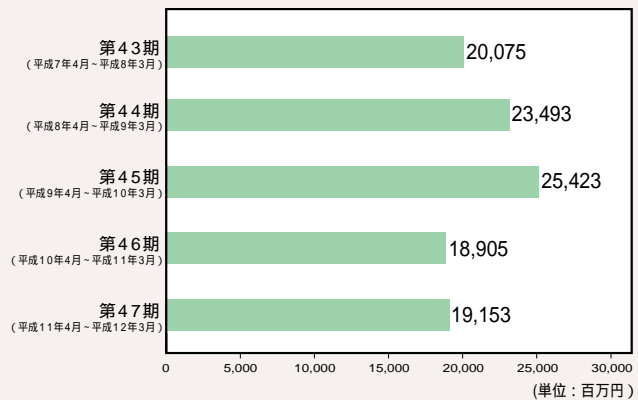
役員(平成12年6月30日現在)

代表取締役会長	小 山 榮 一
代表取締役社長	島 崎 清
専務取締役	山 田 義 信
常務取締役	野 路 井 達 一
常務取締役	安 達 智 一
常務取締役	進 信 義
常務取締役	鈴 木 繁 實
取締役	檜 作 榮 四 郎
取締役	中 井 良 雄
取締役	福 本 博 道
常勤監査役	柿 原 勝 幸
監査役	吉 岡 昭 一 郎
監査役	大 村 卓 一

品目別売上構成



売上高推移



環境マネジメントレポートの対象範囲

当環境マネジメントレポートは、エスペックグループのお客さまをはじめとする多くの利害関係者の皆様に対する環境関連情報の開示を目的としています。

1.対象年度	主に1999年度(1999年4月から2000年3月)の期間を対象としつつ、そこに1996年から当レポートの発行直近までの期間も加えた、経過の報告を目的としています。
2.地域的範囲	日本国内のエスペックグループの単独事業所を対象とし、海外生産・販売拠点、日本国内に点在する営業所・サービス拠点は除きます。
3.事業の範囲	事業活動全般と製品・サービスにわたる環境保全について記述します。また、環境保全・改善事業にも取り組んでいますので、その内容についても記述します。
4.環境影響の範囲	事業活動、製品・サービス活動によって与える環境影響を局所から地球的規模にわたって対象とし、また製品の全ライフサイクルにかかる環境影響についても記述しています。

エスペックグループ

タバイエスペック株式会社

タバイエスペックサービス株式会社

株式会社 タバイ環境設備

株式会社 タバイエスペック京都

株式会社 タバイエスペック兵庫

株式会社 タバイエスペック販売

株式会社 タバイ理工

株式会社 アポロメック

エスペックオリゴサービス株式会社

海外拠点(米国、中国)

第1章 緒言

1. 経営者の声明

社長のことば

私たちは「環境」をビジネステーマに、つねに人と社会と地球の、より良い明日を築くために歩み続けてまいりました。

エスベックグループは、1996年から2000年までの第1期環境管理中期計画を機軸に取り組み、第1期の最終年である2000年を待たずに、その目標をほぼ達成するという大きな成果をあげることができました。

循環型社会元年である2000年をむかえ、2000年から2003年までの第2期環境管理中期計画の策定、全社環境基本方針の見直しを4月に行ないました。

これは、自らにより高いハードルを設定するものであり、エスベックグループが単に環境を守る企業から、環境を創る企業への変革を意味するものです。

新しい全社環境基本方針は、基本理念を大きく見直しました。

「エスベックは、かけがえのないこの地球を決して傷つけない。」ということばで始まっています。

これは、私たちの環境保全への取り組みの決意表明です。

基本方針については、次の5つのポイントで見直しを行いました。

(1) 循環型社会への対応

🌐 循環型生産システムの構築とリサイクルも容易な環境配慮製品の提供

(2) 環境創造、環境改善事業の展開

🌐 緑化などによる地球環境創造と環境計量・改良技術などによる環境改善事業の強化

(3) 新技術の開発、新システムの構築

🌐 次世代につながる環境対応技術の開発と独自リサイクルシステムの構築

(4) 業界リーダーの責任と自覚

🌐 環境先進企業として業界をリードする社会貢献の実現

(5) 環境マネジメント活動のレベルアップ

🌐 従業員およびその家族の環境意識の向上、情報公開の充実とより高い基準での遵法への取り組み

エスベックグループは環境試験機メーカーの枠を超え、21世紀に向けて、「環境」を通じて社会に貢献し、「環境に役立つ企業」へと挑戦を続けてまいります。

環境管理担当役員のことば

1998年より発行した環境マネジメントレポートは、昨年、2万部を発行、多くの方々に好評をいただき、今回で第3号をむかえることができました。当環境マネジメントレポートでは、環境庁の環境報告ガイドラインおよびG.R.Iに沿って作成し、情報開示充実の観点からも大幅にページ数を増やしました。みなさまからの率直なご意見を賜れば幸甚です。

環境保全については、行政、企業、地域、家庭の一体化した取り組みの必要性がますます高まるなか、わたしたちエスベックグループは、社員ひとりひとりが環境管理活動の重要性を充分認識し実践して、一層の成果をあげてまいる所存です。



2000年6月
代表取締役社長 島崎清



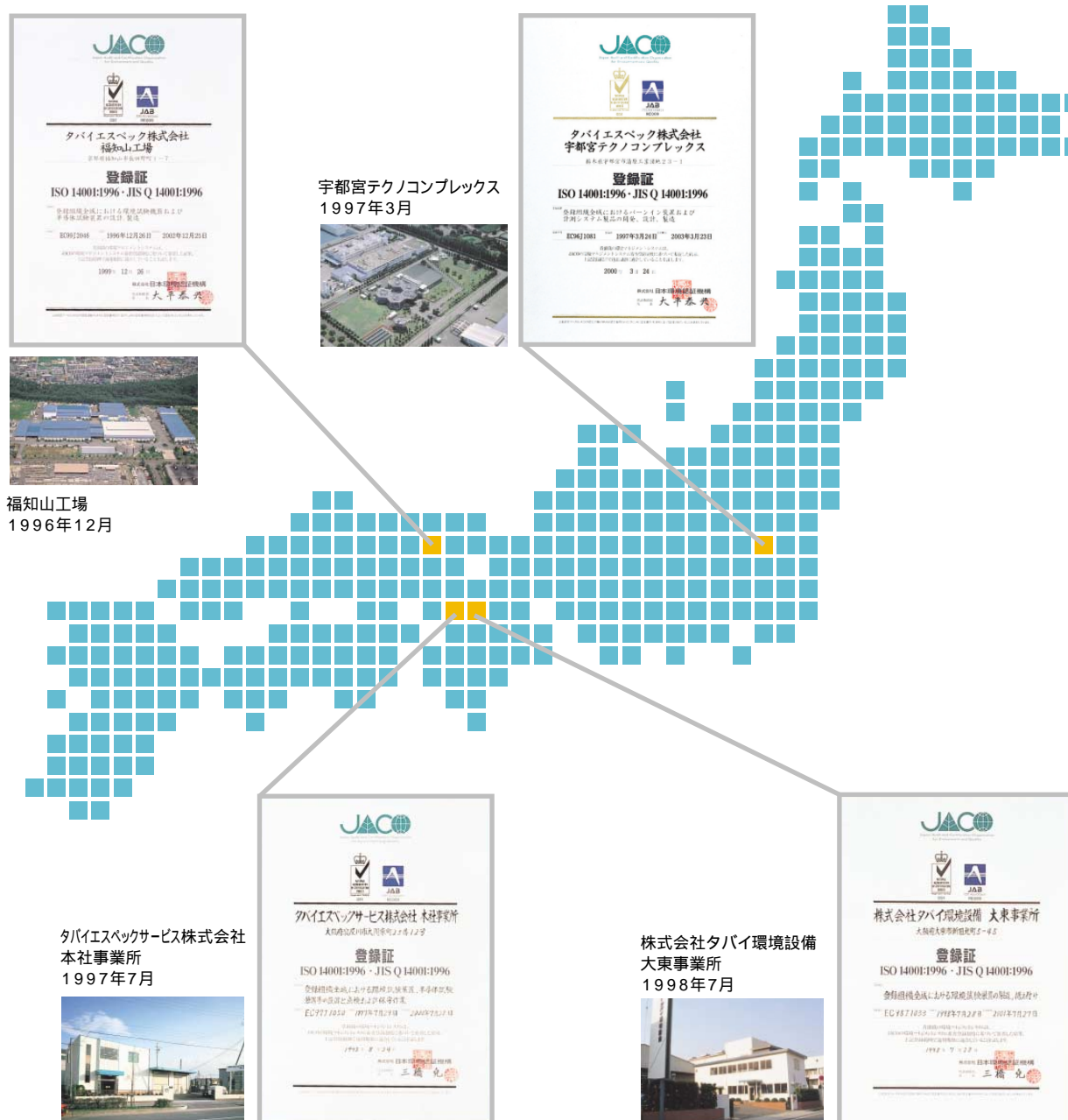
2000年6月 専務取締役
山田義信



第2章 環境マネジメントシステム

1. 環境マネジメントシステム全般

エスベックグループでは、1996年4月、業界に先立ち、「環境管理」の導入を宣言。事業活動および製品・サービスについて積極的な環境管理活動を行うこととしました。その活動の一部として、エスベックグループの主要生産拠点などに対して、ISO 14001の認証取得を計画。1996年から1998年にかけて、4事業所が認証を受けることができました。今後は、本社事業所、営業拠点、および米国、中国の生産拠点に対し、ISO 14001認証取得を推進していきます。



2. 環境マネジメント体制

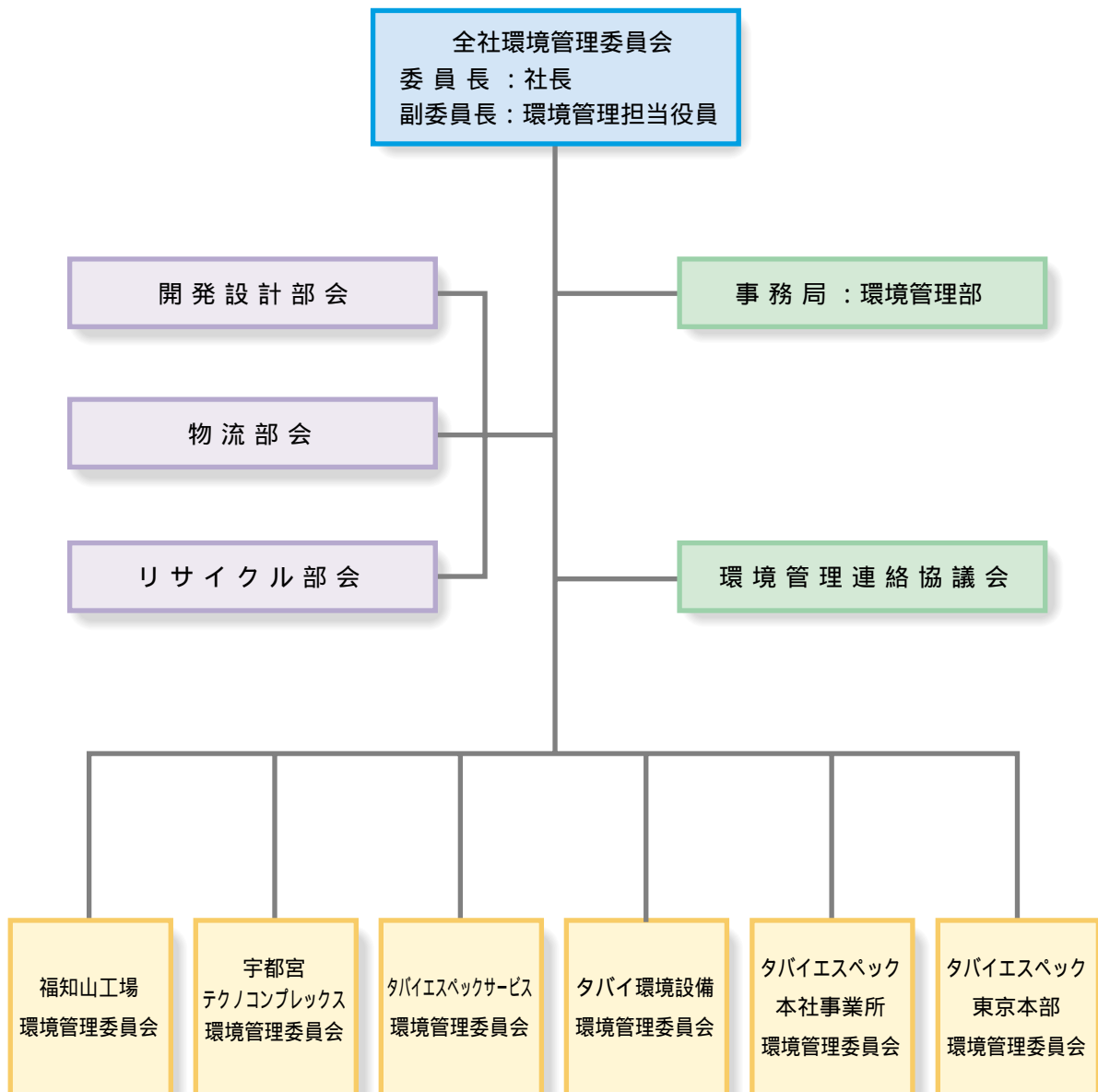
エスベックグループでは、1996年4月、「エスベックグループ全社環境管理委員会」を設置。グループ内の環境マネジメント推進母体としています。

委員長、副委員長には、社長と環境管理担当役員が自ら就任。委員会では全社での目標設定、進捗確認、案件の審議などが行われています。

全社環境管理委員会の下位には、各事業所の環境管理委員会が繋がります。

事業所間にまたがる問題、製品の環境改善など全社共通の問題に対し、3つの専門部会を設置しています。

また、事業所により活動に差異が生じることが多くなってきた今日、各事業所ごとの取り組みでよい点を学び、改善できる点は指摘しあうという目的で「環境管理連絡協議会」も設置し、定期的に情報交換を行なっています。





エスペックグループ全社環境基本方針

【基本理念】

エスペックは、かけがえのないこの地球を決して傷つけない。
単に環境に負荷をかけず、素晴らしいサービスを提供するか、という範囲にとどまってはならない。
いかに環境に役立つか、という視点こそエスペックたるゆえんである。

【基本方針】

1. 事業活動の全ての領域で、省エネルギーの推進、排出物の減量化、資源の有効利用などを行い、環境の保護に努めます。
2. 省エネルギー、解体容易性、リサイクルのための技術を開発し、環境負荷の小さい製品を提供します。
3. 緑の育成・保護・復元技術を向上し、地球の環境を創ります。
4. 大気、水、土壌の計量・分析・改良技術を通じ、広く社会に貢献します。
5. 代替エネルギーの研究を推進し、第三世代冷媒、高効率断熱、熱リサイクルシステムを具現化します。
6. リサイクル素材の活用と徹底したリサイクルをめざしたエスペックリサイクルシステムを運用し、循環型社会の実現に寄与します。
7. 社員はもとより家族を含めた日常生活での環境管理活動を推進し、人の心と暮らしに基づく環境保全に努めます。
8. 環境の先駆者として常に業界をリード、牽引し、変化する社会に貢献します。
9. 環境管理活動にともなう情報を積極的に公開し、社会からの要求を反映します。
10. 活動を行う国々や地域の環境に対する法律、規制等を遵守し、さらには国々や地域間における法律上の格差が認められる場合には、より社会性の高い自主基準を定め、一層の継続的改善と維持管理に努めます。

1996年4月1日制定

2000年4月1日改訂

タバイエスペック株式会社

代表取締役社長 島崎清

3. 事業活動と製品・サービスの環境影響評価

事業活動が及ぼす環境影響(結果)は、次の10分類に区分しています。

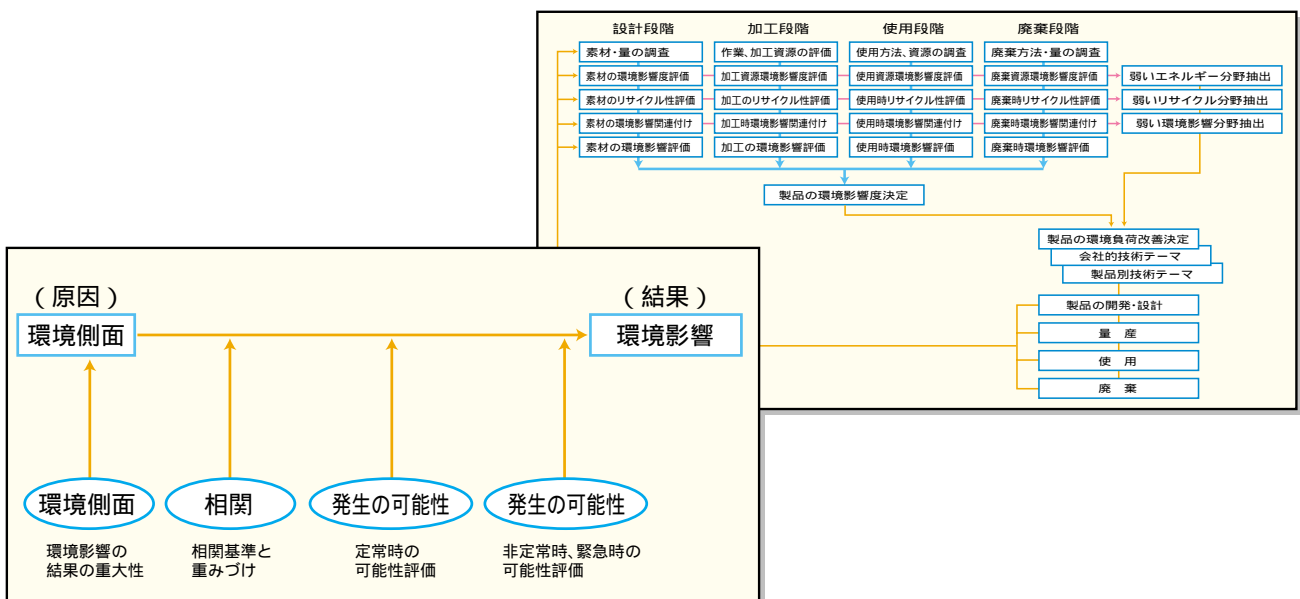
- | | |
|--------------|---------------|
| 1.人の健康 | 2.騒音・振動・悪臭・景観 |
| 3.大気汚染 | 4.水質汚濁 |
| 5.地下水汚染・土壌汚染 | 6.廃棄物処理場不足 |
| 7.生態系変化・森林破壊 | 8.地球温暖化 |
| 9.オゾン層破壊 | 10.資源枯渇 |

この区分に対し、エスペックグループが行う事業活動での投入 / 排出行為との関連付け、関連付けの強さ、量に対する評価、重大性の評価を実施。現在 / 計画 / 過去の評価と、定常時、非定常時、想定した緊急時の評価を実施しています。

環境マネジメント活動の結果、著しい環境側面(原因)が見えなくなってきた場合、評価基準値を見直し、更なる環境改善の根拠としています。

製品の環境影響については、製品のライフサイクル(資材投入～加工～使用～廃棄・リサイクル)における環境への影響を、開発・設計時に設計担当者自ら評価を実施。現在は、単位重量あたりの主要構成素材の評点を「1」とおき、他の素材の評点を相対的に変化させた社内基準で、LCA的な評価を実施しています。

今後は社会の動きに合わせたLCA手法に移行していく計画です。



4. 法規制およびその他の要求事項

エスペックグループが環境に関連して適用を受ける法規制・条例・協定などに関しては、各事業所および開発・設計部門が管理する体制としています。

また、知り得た法規制などの情報に関して各事業所間、各部門への情報伝達ルート・手段を定め、漏れなく、かつ高くアンテナを張る体制を整えています。

さらに、第1章 - 2 経営理念にもあるとおり、世界の法規制についても遵守し、地域間に格差がある場合、より社会性の高い規制を適用することを宣言・運用しています。

5. 目標

エスベックグループでは、1996年4月、環境管理の導入宣言と同時に、2000年までの、第1期
 全社環境目標を設定しました。

	項 目	基 準	達 成 目 標 (生産原単位)
事業活動	廃棄物	1995年	2000年までに30%減
	電 力	1995年	2000年までに20%減
製 品	製品の省エネ(電力)	1996年	2000年までに30%減
	フロン(HCFC)		2005年までに全廃
	リサイクル率	1996年	2000年までに30%増

第1期全社環境目標

—1996年7月22日 制定—
 —1999年4月21日 改訂—

この結果の詳細は、第3章 環境パフォーマンスに掲載しています。

また2000年を迎えるにあたり、第1期環境管理中期計画(1997~2000年)から、第2期環境
 管理中期計画にステップアップ。

第2期環境管理中期計画では、期間を2000年から2003年までとし、次の目標を設定しました。

	項 目	基 準	達 成 目 標
事業活動	排出物の削減	1999年	2003年までに10%削減(売上原単位)
	製品製造に関わる電力	1999年	2003年までに5%削減(売上原単位)
	エスベックリサイクルシステムの運営		2000年度運用開始
	グリーン調達		2000年度運用開始
	社会からの認知		2003年までに環境関連賞5つ受賞
	業界の牽引		2003年までに日本試験機工業会内での環境管理規格(案)制定
	環境管理活動の範囲拡大(ISO14001)		2003年までにエスベックグループとしてISO14001取得(海外拠点含む)
	環境管理活動の範囲拡大		2001年以降、仕入先・家庭を含んだエスベック環境ウィークの開催
製 品	製品の省エネルギー(電力)	1996年	2003年までの開発品において機種平均30%減 2003年までに熱処理機に対する30%以上の省エネ技術の開発、製品への展開
	脱フロン		2003年までにオゾン層破壊、地球温暖化につながらない冷媒による環境試験機用冷凍回路の研究・開発
	リサイクル	1996年	リサイクル素材の使用率:5%
	環境保全・改善事業		別途事業計画による

第2期全社環境目標

6. 取引先への対応

エスベックグループは資材、部品、役務を取引先様より調達し、製品・サービスの提供をお客様
 に行うことが主たる活動です。環境への影響はエスベックグループだけではなく、取引先様
 にも及んでいます。エスベックグループでは、現在、グリーン調達を実施すべく準備を進めています。
 2000年、「エスベックグリーン調達基準書」を制定予定。

取引先様についても、環境に配慮した資材、部品、役務を要望していきます。

7. 教育の現状と計画・資格

【訓練、自覚】エスペックグループでは、環境マネジメントの第一歩は教育から、と考えています。社内職制による教育の実施、自己啓発教育、資格認定制度を運用し、従業員の環境意識の高揚に努めています。対象者は社内従業員はもちろん、派遣社員、場内外注者も対象としています。

教育・自覚手段の種類	内 容
職制による環境マネジメント教育	職制を通じて、啓発教育、マネジメントシステム教育、緊急事態に関する教育などを定期的に実施。
自己啓発教育(社内教育制度)	社内講座 環境管理(ISO14001)講座。 環境管理部が講師となり休日に開催。自主参加。社内教育制度中、最も受講者数の多い講座である。
自己啓発教育(通信教育制度)	各分野より従業員が希望する通信教育講座の申込代行。優秀な成績で終了した者に対して奨励制度の用意。
エスペック環境強化週間	6月5日を含む週を「エスペック環境強化週間」と設定。 環境改善提案、環境功労表彰、地域清掃などを実施。
エスペック環境ニュース	環境管理部より全従業員を対象に発行する冊子。環境パフォーマンス、法改正情報などを平易に掲載。(不定期発行)。

【資 格】エスペックグループでは、環境マネジメント上重要な業務に携わる従業員に対して資格認定制度導入。また従業員は、環境関連の資格取得に対しても熱心に取り組んでいます。

資格名	内 容
内部環境監査員	社内資格。社外の内部環境監査員セミナーを終了し、事業所長が認めた者に与えられる資格。現在26名。

公認資格名	人数	公認資格名	人数	公認資格名	人数
環境計量士(濃度)	3	高圧ガス製造保安責任者(甲・乙・丙種)	6	放射線取扱主任者	6
環境カウンセラー	2	冷凍空調技師(1・2種)	101	エックス線作業主任者	5
公害防止管理者(大気2種、4種)	4	危険物取扱者(甲・乙・丙種)	287	有機溶剤作業主任者	19
公害防止管理者(水質)	5	消防設備士(甲・乙種)	16	酸素欠乏危険作業主任者	16
公害防止管理者(騒音)	9	消防設備点検資格者(1・2種)	2	空気調和衛生工学会設備士(衛生)	4
公害防止管理者(振動)	4	作業環境測定士	3	空気調和衛生工学会設備士(空調)	10
環境マネジメントシステム主任審査員	1	臭気判定士	2	特定化学物質等作業主任者	19
環境マネジメントシステム審査員	1	防火管理者	67	毒劇物取扱責任者	8
環境マネジメントシステム審査員補	3	衛生管理者(1・2種)	14	特別管理産業廃棄物管理責任者	6
電気主任技術者(3種)	9	衛生工学衛生管理者	3	ボイラー技士(2級)	19
エネルギー管理士(電気)	1	産業廃棄物焼却施設技術管理者	1		
冷媒フロン回収・再利用技術	18	乾燥設備作業主任者	15		

8. 環境マネジメントシステム監査

エスペックグループでは、ISO14001の認証取得事業所および認証取得予定事業所に対して年2回の内部環境監査を実施。マネジメントシステムの「意図の有無」「実施状況」「有効性の確認」を重点的に監査します。結果を経営層に報告するとともに、改善点については、ただちに是正を講じています。

また外部審査を、1996年のISO14001の認証取得後、年1回受けています。

1999年度は、福知山工場、宇都宮テクノプレックス(事業所)が更新審査を受けました。結果はいずれも重大な指摘はなく、認証登録を更新することができました。



内部環境監査風景

9. 緊急事態への準備

エスペックグループでは、ISO14001認証取得事業所を中心に、事故などにより地域や地球規模の環境問題を起こすことがないように、未然防止対策を施しています。一例として、緊急事態発生時の対応設備・道具の配備、対応手順の制定、通報ルートの設定などを行い、同時に定期的な訓練とテストを行っています。

なお、過去において緊急事態の発生はありませんでした。

また、製品について環境面のリコールはありませんでした。

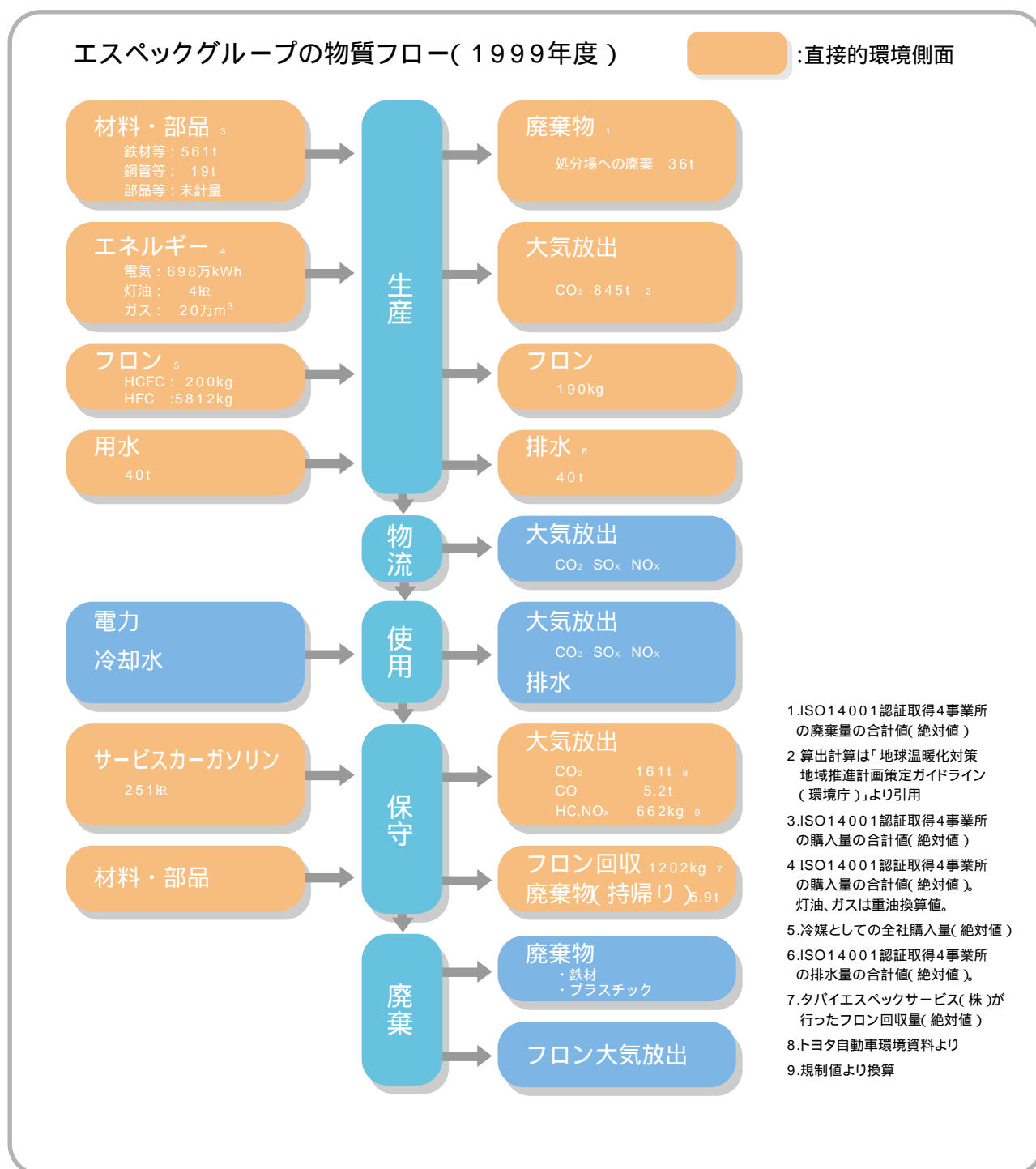


緊急事態訓練風景

第3章 環境パフォーマンス

1. 物質フロー

エスペックグループでは、昨年度から事業活動による投入 / 排出物の量を「物質フロー」として公開しています。1999年度は、HCFC / HFC冷媒の大気放出量を大幅に削減することができました。



2. 主要項目推移

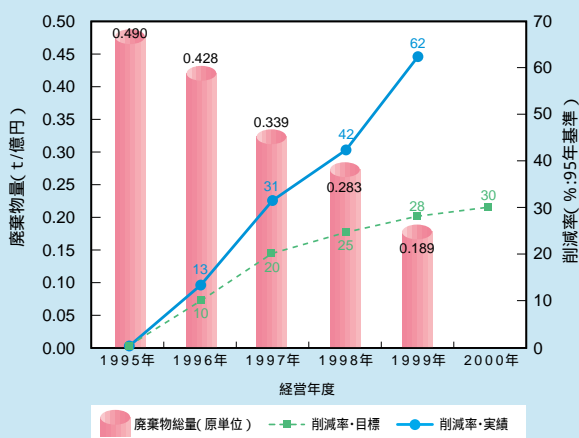
エスバックグループでは、全社方針・全社目標に廃棄物削減と電力削減を設定。1996年から削減への取り組みを進め、大きな成果をあげることができました。

【廃棄物への取り組み】

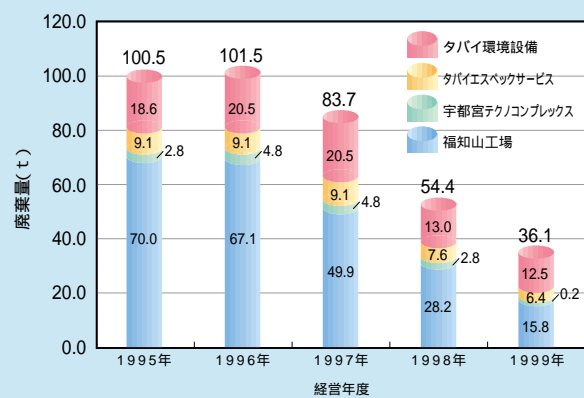
廃棄物は、1995年当時の量に対して2000年までに30%削減(生産原単位)と設定。2000年3月末現在、62%削減することができました。また絶対量では64%削減できました。その活動の主体は、徹底した分別による有用物化です。今後は、廃棄物はもちろん、有用物を含めた排出物を削減していくことが本来の環境マネジメント活動と考え、取り組んでいきます。

なお昨今のダイオキシン問題に関連し、焼却炉を保有していた事業所は、1999年10月までに全ての焼却炉を撤去または運用禁止としています。

廃棄物量(4事業所合計:原単位)と削減率



廃棄物量(4事業所合計:絶対値)



生産工程での排出物の分別



現物を貼り付けた分別方法掲示板



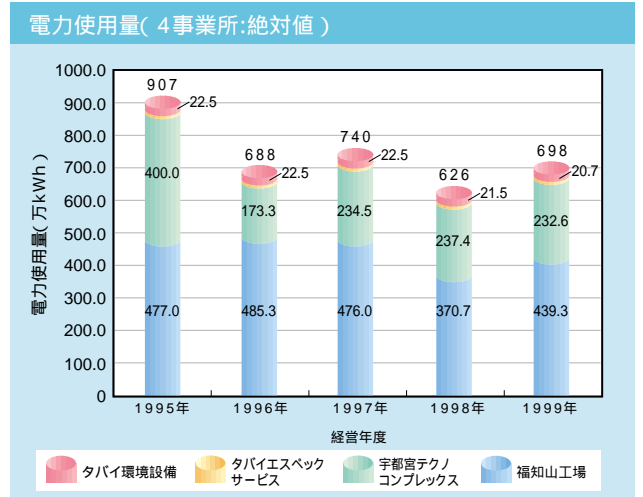
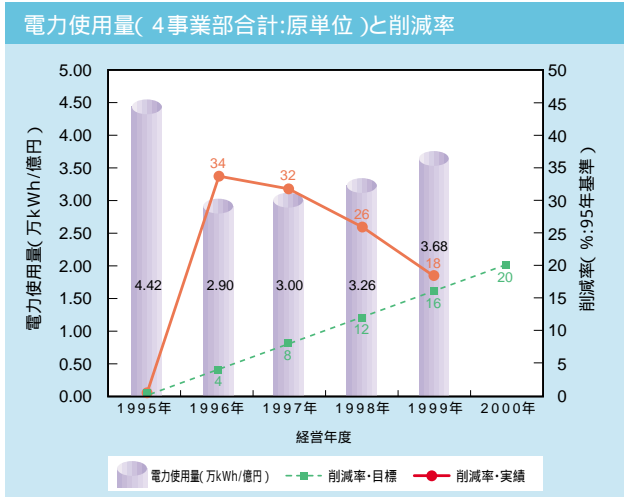
排出物集積場(福知山工場)



排出物集積場での最終分別状況

【省エネ(省電力)への取り組み】

エスベックグループの事業活動に必要とするエネルギーは、ほとんどが「電気」です。廃棄物同様、1995年当時の量に対して2000年までに20%削減(生産原単位)と設定。2000年3月現在、18%削減することができました。また絶対量では、23%削減できました。その活動は、設備の入れ替えやインバータ等の省電力設備の取り付け、生産工程の統合・効率化、こまめに電源を切るなど、多岐にわたっています。



24時間稼働している工業用ポンプに、インバーターを取り付け



圧縮空気配管に電磁弁を取り付け、業務終了・非使用回路は自動的に遮断する



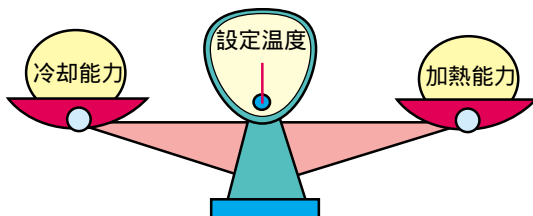
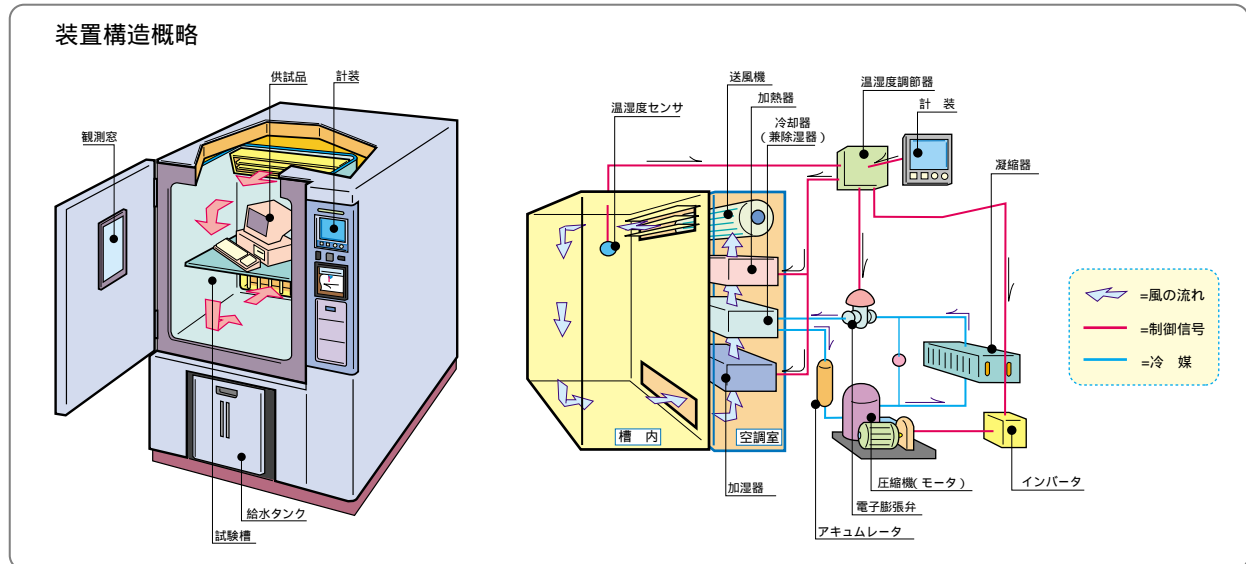
各工場(建物)単位の電力使用量の常時監視、事務所にて一括観測・監視



事務所照明用スイッチと、消灯チェックシートによるこまめな節電の周知徹底

3. 製品への取り組み（開発設計段階での取り組み）

タバイエスペックの主力製品「環境試験装置」は、下図のような構造、構成になっており、大きさは机の上に乗るサイズから旅館の大広間ほどもある大型製品まで幅広く取り揃えています。お客様の多種多様なニーズにお応えし、短期間でお納めしております。



環境試験装置は、金属の内外槽、ウレタン断熱材、電気・機械部品などで構成されています。気象環境を再現するのに、フロンを用いた冷凍回路と電気ヒータによるバランスで温湿度を制御しています。

この環境試験装置が地球に与える影響は、

- ・フロンによるオゾン層破壊、地球温暖化
- ・多大な消費電力による地球温暖化
- ・廃棄時の処分問題

などが挙げられ、改善点を多く抱えています

エスペックグループは製品の環境改善について、目標を持っています。

- 製品の消費電力 :2000年までに30%削減
- 製品のフロン :2005年までにHFCフロンに転換
- 製品のリサイクル率 :2000年までに30%増
(ともに1996年比)

この自らに課した目標を達成するため、製品の改善・改良を実施するだけでなく、基礎研究・要素開発にも力を入れています。

事業活動による環境管理活動と、そこから生まれる「製品」の環境改善。環境への取り組みの「両輪」としています。

消費電力削減

製品の消費電力を削減し、使用時の環境影響を少なくすること。エスペックグループが製品の最重要課題のひとつに挙げたテーマです。1997年発売の恒温恒湿器プラチナスKシリーズでは、消費電力を最大67%、機種平均32%の削減を達成しました。この成果は、社団法人日本機械工業連合会「第19回平成10年度優秀省エネルギー機器表彰」受賞という評価をいただいています。1999年発売の冷熱衝撃装置TSAシリーズも、最大37%の消費電力削減を達成しました。また、設備電力の削減も図っています。



リサイクルへの取り組み

金属でできた外槽と内槽との間にウレタン断熱材を施した当社の製品。現状、解体が困難であり、廃棄物処理場に負担をかけています。エスペックグループでは開発段階から製品のリサイクルを考え、解体しやすい構造、一般工具で解体できる構造

- ・解体手順書の発行、公開
- ・樹脂部分への材質マーキング

などを実施。



素材マーキング例

同時にリサイクル素材の積極的採用を進めています。

梱包材への取り組み

タバイエスペックは梱包材についても考えています。容器包装リサイクル法の施行に伴い、ますます厳しくなる梱包材料への配慮。これに対し、エスペックグループは前倒しで取り組んでいます。たとえば製品をカバーする樹脂製袋は、厚みを極限にまで薄くしました。梱包材料についても、また、重量物である当社製品は従来、木枠梱包を余儀無くされていましたが、



段ボール梱包例

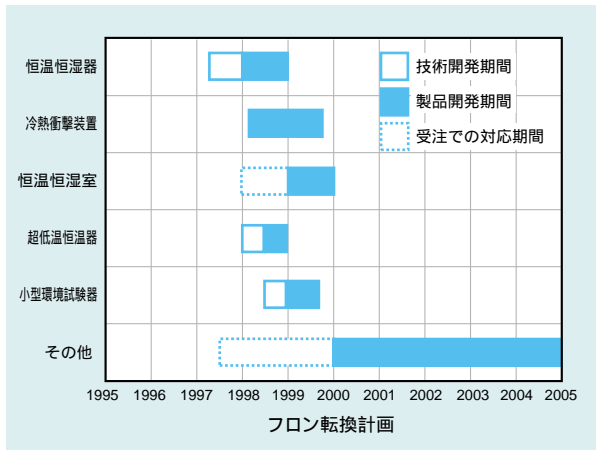
- ・重量物用ダンボール梱包の開発(特許2件公開中)
- ・輸送業者との連携による裸(梱包なし)輸送

を実施しています。

これらの取り組みにより、森林資源の保護、緑の保護、有害物質の排除に努めています。

フロンへの取り組み

エスペックグループでは、1995年のCFCフロン全廃規制に先駆け、1994年にCFCフロンを製品・工場から排除。次にオゾン層破壊係数「0」のHFCフロンへの転換を進めています。性能、信頼性等に関する問題を解決しながら、1999年秋、当社製品の主要製品(出荷台数比98%)について、HFCフロンへの転換が完了しました。



「環境配慮開発設計ガイドライン」

エスバックグループでは、製品に対する環境への配慮を一層推進するため、1999年春、社内規定「環境配慮開発設計ガイドライン」を制定、同時に運用を開始しました。当ガイドラインは、エスバックグループの開発設計部門が製品開発・設計時に適用する規定で、

- ・製品ごとの環境目標値
- ・資源投入～加工～使用～廃棄の全ライフサイクルの環境アセスメントの実施指示
- ・「環境デザインレビュー」の実施指示
- ・環境面の技術評価、環境の評価を含む品質評価の実施
- ・経営層による環境面審査、量産・出荷可否判断
- ・使用推奨素材の指定、使用禁止物質の指定
- ・環境配慮表現指標の定義、用語の定義

などで構成されています。

4. 生産活動・物流への取り組み

立地における環境保全

エスバックグループでは、1996年以来、毎年、各事業所での土壌汚染の分析を継続しています。もちろん、土壌汚染となる作業・業務は行っていませんが、「土壌汚染をするような作業・業務を実施していないことを、計測・分析して実証する」ことを継続しています。計測結果は、法規制値を大きく下回っています。

環境計量証明書

分析士：佐藤 隆雄
 測定日：2019年11月15日
 測定時間：10時～12時

対象：土壌汚染調査

この報告書は、本表に記載の測定結果に基づき作成されています。

測定項目	測定結果 (単位)		単位
	測定値	法規制値	
鉛	0.005	0.010	mg/kg
銅	0.005	0.010	mg/kg
亜鉛	0.005	0.010	mg/kg
マンガン	0.005	0.010	mg/kg
クロム	0.005	0.010	mg/kg
ニッケル	0.005	0.010	mg/kg
モリブデン	0.005	0.010	mg/kg
コバルト	0.005	0.010	mg/kg
セシウム	0.005	0.010	Bq/kg
ストロンチウム	0.005	0.010	Bq/kg

測定方法：JIS S 5011 (鉛、銅、亜鉛、マンガン、クロム、ニッケル、モリブデン、コバルト)
 JIS S 5012 (セシウム、ストロンチウム)

測定場所：〒260-0199 宇都宮市

測定者：佐藤 隆雄

測定機関：エスバックグループ 環境検査センター

廃棄物削減への取り組み

エスバックグループでは、廃棄物の削減に努めています。現在の活動の主体は、「徹底した分別による再資源化(有用物化)」。ごみ箱を分別箱に変える。分別によって得られた「資源」を再利用する。細かな心配りにより、1999年、栃木県宇都宮市にある宇都宮テクノコンプレックスでは、「ゼロエミッション工場」を実現しました。

しかし残念ながら、廃棄物は減っても、排出物は減らないのが実情です。

今後は、廃棄物の削減はもちろん、投入物の適正化、排出物の削減を推進していきます。



宇都宮テクノコンプレックス



危険有害化学物質への取り組み

現在、エスベックグループでは、約300種類の危険有害化学物質を使用しています(当社基準に基づく選定)。これらの危険有害化学物質について、

- ・購入時に、MSDS(材料安全データシート)が事前に用意されていない場合は購入できない。また、使用する事業所の環境管理責任者の承認を要する。
- ・使用、保管時の手順書の作成。および手順書に基づく教育の実施。
- ・危険有害化学物質ごとの緊急事態に関する訓練、教育、テストの実施。
- ・無害性物質、低害性物質への転換

などを行っています。

法的使用禁止物質の使用・保有の禁止はもちろんですが、現在までに、無害性・低害性物質の置き換えを31品目実施しています。

また、PRTR法への対応として、全事業所の危険有害化学物質の購入・使用・廃棄・移動量把握のための全社ネットワークを構築。現在、試験運用を開始しています。

流通への取り組み

資材、部品の調達にあたっては、次のことに努めています。

【徹底した通函化】

事業所の排出物の大半を占める梱包材や緩衝材。分別リサイクル処理のために多くの時間と費用を費やしているばかりでなく、資材の価格にも含まれています。エスベックグループでは、梱包材・緩衝材に関し通函化することを契約条件にしています。

またエスベックグループから通函を提供し、納品してもらうシステムも構築しています。これにより、梱包材・緩衝材の総量は、1995年当時の量に比べ、21%削減することができました。また緩衝材などは、いったん社内でプールし、社内物流に再利用したり、任意の仕入先に無償で持ち帰ってもらうことで事業所から出る廃プラスチック類の量を、33%削減することができました。

【在庫量の見直しによる資材輸送回数の見直し、梱包材料の削減】

「必要なものを、必要なときに、必要なだけ」。従来の物流システムの基本でした。しかし、このために、毎日少量の資材が入荷し、トラック便の入場回数も増えていました。

エスベックグループでは、あえて資材・部品の在庫量を見直し、トラック輸送回数、梱包材料の削減に努めています。

【製品・部品の集中配送システムによるトラック便削減】

エスベックグループは、主に京阪神に主力工場を持ち、資材などの仕入先も京阪神の仕入先をお願いしています。従来は、製品納入及び仕入先からの納品に際し、個々にトラックを手配・または自社トラックにより納品をしていました。そこで、エスベックグループでは、大阪にエスベックグループへの集中配送場所を設置。たとえば仕入先はそこに納品し、エスベックグループへの納品は、トラック1台により、各事業所に一括して輸送されます。これにより、トラック便を大幅に削減することができました(従来、4500便/年1250便/年)。

CO₂の削減、NO_x、SO_xの削減、交通公害の削減に寄与しています。

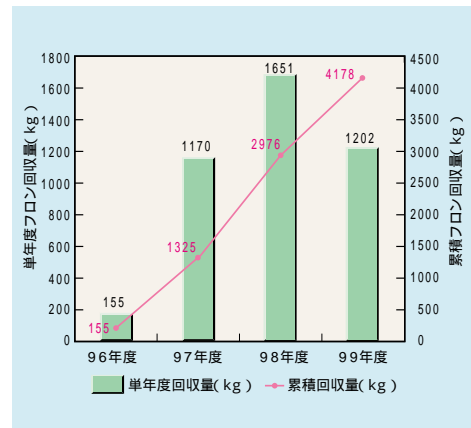


グループ内物流専用車

5. サービスへの取り組み

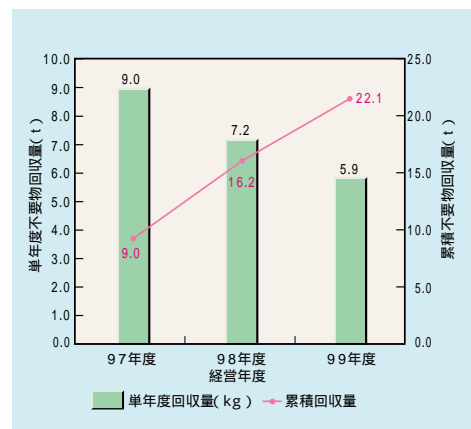
社会でのフロン回収

エスペックグループのサービス会社であるタバイエスペックサービス株式会社は、冷媒フロンの回収を行っています。当社製品をお使いいただき、修理・廃棄される場合、フロンは大気に放出するしかありませんでしたが、タバイエスペックサービス株式会社では、業界に先駆け、1995年、修理・廃棄時のフロン回収を開始しました。回収したフロンは、指定業者により無害化処理が行われます。その回収量はおお客様のご理解も得られ、4178kgにも及びます。(2000年2月現在累積値)



お客様先からの不要物回収

またタバイエスペックサービス株式会社では、お客様先で行った保守・修理業務時に発生する不要物を全て持ち帰り、自社内で分別・適正処理するシステムを運用しています。これにより、お客様先で分別・リサイクルするしくみがなかったり、少量のため廃棄せざるを得なかった不要物についても、リサイクルの途を開きました。その回収量は、22tになります。(2000年2月現在累積値)



無形の商品への取り組み

エスペックグループでは、環境試験器などの有形の商品以外に、無形の商品も提供しています。

- ・「保守修理サービス」- タバイエスペックサービス株式会社が行う、お客様先での製品に対する保守・修理サービス
- ・「試験(受託試験)」- お客様から試験試料を預かり、またはお越しいたごき、当社の製品群を設置した試験場所で、試験を実施するサービス
- ・「試験器レンタル」- エスペックグループの製品を短期レンタルするサービスなどがあります。

エスペックグループでは、これらのサービスについても、環境影響評価を実施、著しい環境側面を設定し、改善に取り組んでいます。たとえば、試験では試験装置の電力を、試験器レンタルでは梱包材を著しい環境側面として設定。試験準備時間、後処理時間の短縮、レンタル製品専用梱包材(通函)の運用などにより、環境改善に努めています。



試験(受託試験)

6. 製品リサイクルへの取り組み

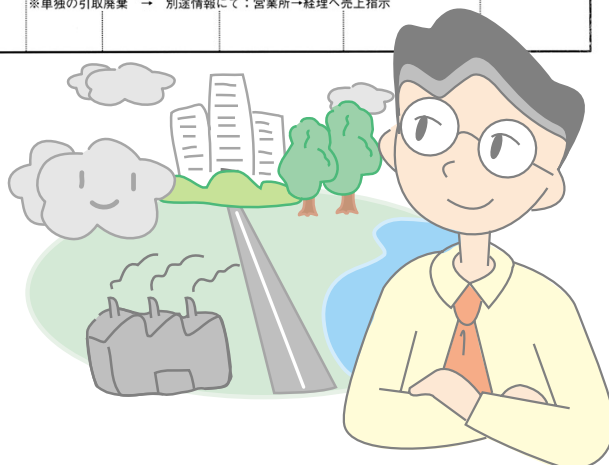
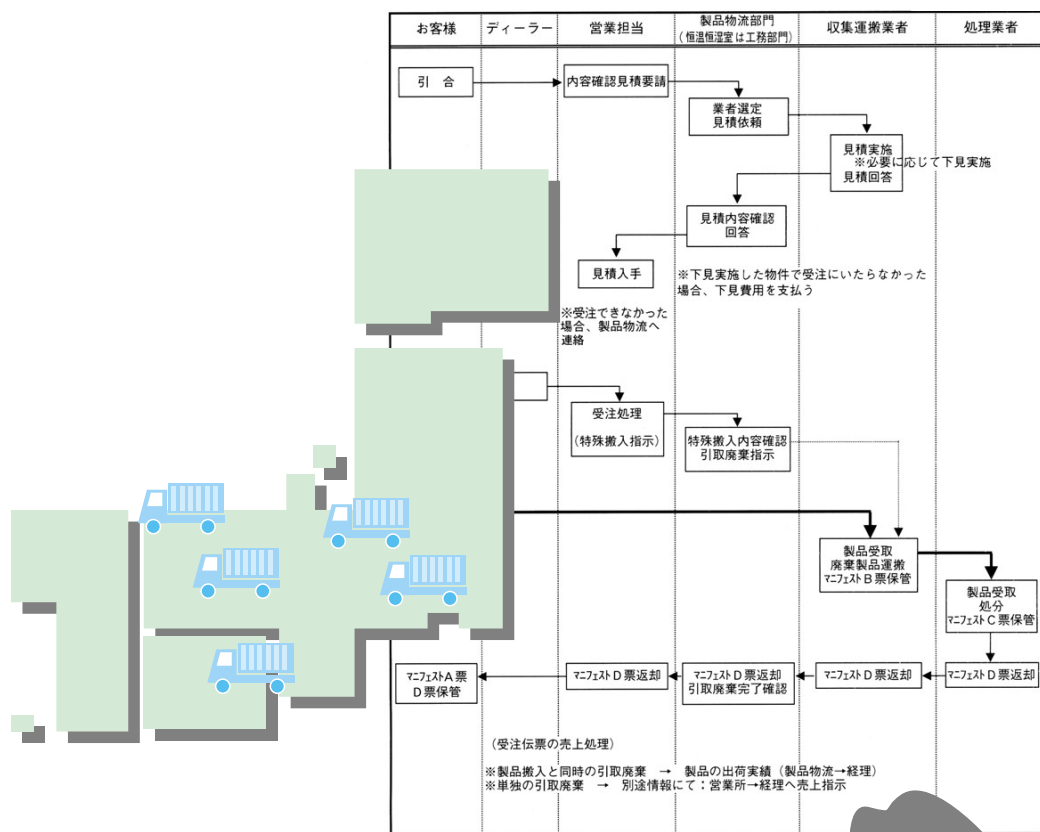
エスペックグループは、寿命をまっとうした製品についても考えます。当社の製品は10年以上ご使用いただける製品です。しかし10年前の製品には「リサイクル」の考えは入っていませんし、構造上、解体・分別しにくい製品でもあります。エスペックグループでは、従来、お客様先での廃棄にたよっていた「寿命をまっとうした製品」についてもメスをいれました。それが「エスペックリサイクルシステム」です。

お客様から寿命をまっとうした製品を引き取り、フロンなどを抜き取った後、エスペックグループが評価・選定した専門業者の手で、再資源化・再エネルギー化します。(有償)

これにより、お客様はもちろんエスペックグループでも、コスト上難しかった「リサイクル」を進めることができました。

現在、製品1台あたりのリサイクル率は90%(重量比:機械選別)。今後もリサイクル率の向上と、再利用への道を開拓していきます。

製品引取りサイクル処理フロー



7. 環境改善事業への取り組み

緑への取り組み

エスベックグループは、「緑」を育てます。エスベックグループでは、「緑」の育成・保護が環境の基本と考え、「植物育成事業」を事業の一部とするとともに、国内外の緑化・植樹活動も積極的に推進しています。

【植物育成事業】

現在、植物が枯れて絶え、砂漠化が進む地球。

そんな中、エスベックグループは

- ・どこでも植物が育成できる
- ・少ない面積でたくさんの収穫がある
- ・季節に関係なく育成できる

などの植物育成を考えています。

エスベックグループは、環境試験装置のノウハウを活かし、植物育成事業を推進しています。植物育成事業は、収奪農業、土壌汚染、自然森林の破壊の防止に寄与します。



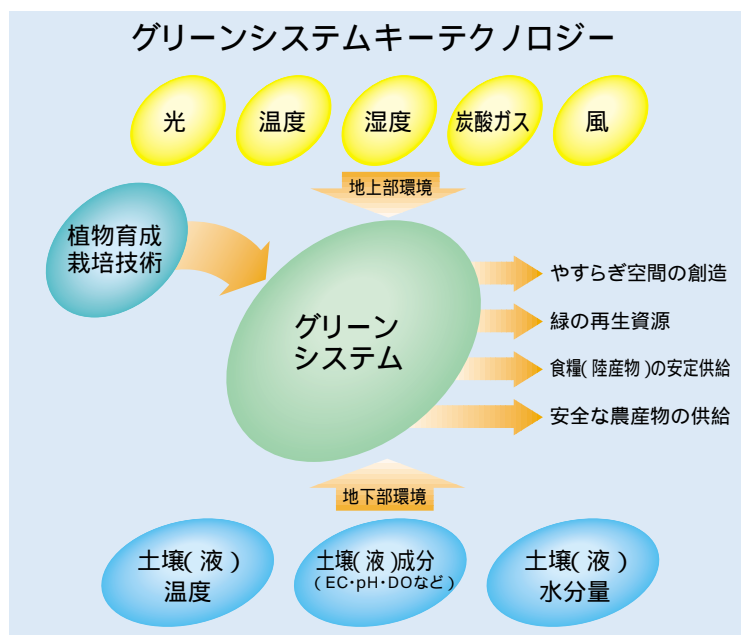
コンテナ型植物育成装置



環境制御温室

【グリーンシステムの開発】

エスベックグループでは、「グリーンシステム」と名づけ、植物育成事業を展開しています。光、温度、湿度、炭酸ガス濃度、土壌・養液温度などを調節し、植物の育成をコントロールしています。この取り組みは、1993年、植物工場学会から開発賞をいただき、社会に認められるものとなっています。



【森づくり・水辺づくり】

エスペックグループでは、財団法人国際生態学センター研究所長 宮脇先生が提唱される森づくりの手法「郷土の森づくり」の考え方をベースに、その地に適し、緑のもつ公益性を重視した緑化を事業展開しています。土木・建設会社との提携により、全国で緑化や緑の復元を実施。地域住民の方々から、よい評価をいただいています。

公益性

- ・生態系保全
- ・酸素供給
- ・大気・水・土壌等の浄化
- ・防音、防風、気候緩和
- ・保健休養、景観維持
- ・水資源涵養
- ・土砂流出、破壊防止



水・土壌への取り組み

生命の源である水。と同時に、水は有害物質の拡大媒体でもあります。その水を計り、水を改善、そして本来の水を提供する。それがタバイエスペックの新しい取り組みです。

そして、普段見過ごされがちな「土壌」。土壌は優れたフィルターの役目を果たし、水、動植物ひいては大気の「母」にあたります。今、その土壌が汚染されています。土壌の自浄作用を研究、本来の力を取り戻すとともに、より積極的な自浄作用を作り出す。これもタバイエスペックの新しい取り組みです。

【環境測定事業】

当社主力工場の福知山工場には、「京都環境計量センター」を、宇都宮テクノコンプレックスには「栃木環境計量センター」を設置しています。両環境計量センターは、水質、土壌、大気、作業環境をお客様先で測定採取、分析を行い、証明書を発行する事業です。この環境測定事業は、地域の方々はもちろん、遠隔地のお客様からもご用命いただき、お客様の環境への取り組みに広く貢献しています。



京都環境計量センター

【水・土壌処理・浄化への取り組み】

エスペックグループでは、水処理・浄化を推進しています。汚染された水、土壌を浄化する「汚染地下水浄化工法」(特許申請中)の技術開発を進めるとともに、商品化を進めています。



当社水質・土壌処理、浄化製品群

8. 広報・啓発・コミュニケーション活動

エスペック環境管理セミナー

環境の重要さ、大切さを知っていただき、当社の環境管理活動を見ていただき、役立てていただく。ISO14001の取得方法をご理解いただき、援助させていただく。この考えのもと、タバイエスペックは、「エスペック環境管理セミナー」を開催。約300社を超えるお客様にお越しいたごき、ご好評をいただいています。(1999年10月現在) この環境管理セミナーでの出会いは、お客様へのノウハウの無償提供・技術指導などにも発展しています。この活動、この出会いを継続させていただきます。



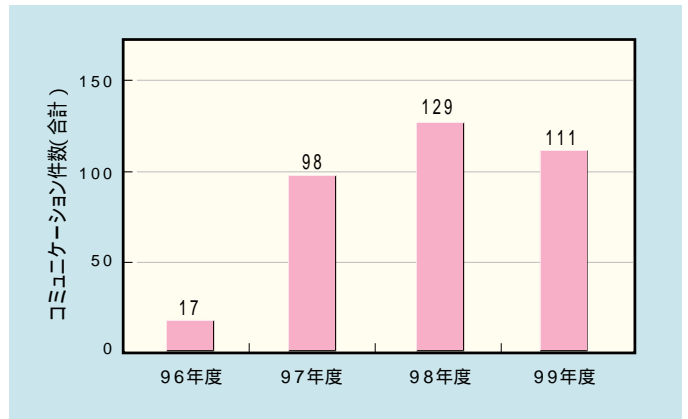
エスベック環境強化週間

1997年、エスベックグループは6月5日の「世界環境デー」を含む週を、「エスベック環境強化週間」に設定。その週間内に、社長が主要事業所を回り、環境保全の必要性を従業員にアピールするとともに、事前に募集した「環境改善提案」の審査・表彰、各部長が評価した「環境功労表彰(部門・個人)」が行われます。また毎年、この週間内の1日、主要4事業所の全従業員で地域清掃を実施しています。清掃区域は、通勤路、近隣の公園など。回収したゴミは毎年、数トンに及びます。この活動は、地元のマスコミに取り上げられるとともに、地域住民の方々から好評をいただいています。



外部コミュニケーション件数

エスベックグループとお客様、周辺住民の方々をはじめとする利害関係者とのコミュニケーション件数は下図のとおりです。



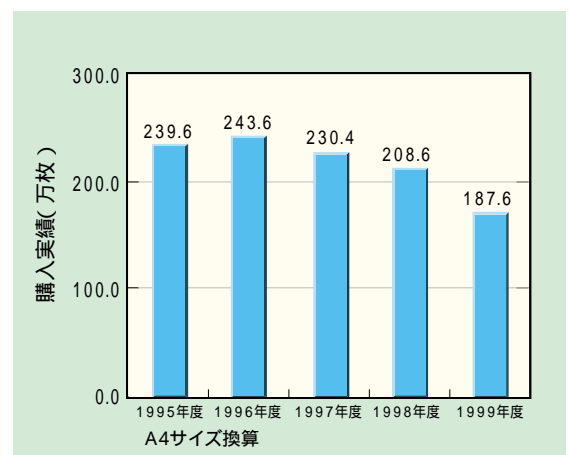
9. オフィスにおける環境保全活動

事務用紙削減

事務・設計に必要な各種事務用紙。大切な森林資源を費やしているとともに、生態系の変化、種の絶滅をももたらしています。エスベックグループでは、事務用紙の削減に努めています。

- ・指定用紙の古紙配合率見直し
- ・使用済みのコピー用紙の裏面再利用
- ・縮小・両面コピーによる配布枚数の削減
- ・配布先の見直し、回覧化、電子メール化
- ・電子媒体による保管・閲覧など

当社主力工場の福知山工場では、22%の削減に成功しています。



グリーン購入の推進

エスベックグループでは、事務用品、OA機器、衛生用品などについてもグリーン購入を推進しています。現在の選定基準は、環境保全に関するエコマークのあるものとしていますが、今後は、エスベックグループ内での銘柄指定・一括購入をめざします。OA機器では、パソコンのディスプレイに注目し、一般事務用のパソコンディスプレイは消費電力の少ない液晶ディスプレイを、またエネルギースターマークの機器を選定しています。

省エネの推進

事務所はもちろん、事業所全体での昼休み・定時後消灯はすでに定着しています。エスベックグループでは、それ以外に

- ・定時後のパソコンやコピー機の電源OFF
- ・白熱灯から蛍光灯への変更工事
- ・自然光を活かしたレイアウトへの変更
- ・冷暖房の適正温度設定と管理

などを行っています。また、環境改善提案制度によって出されたこまかな提案も、実施に移しています。

クルマに対する環境保全

営業車、サービスカーなど、エスベックグループでは約82台のクルマを保有しています。アイドリングストップ運動を実施するとともに、燃費優先で選定していたディーゼル車から、排気ガスが比較的きれいなガソリン車への置き換えを進めています。2000年は天然ガス自動車の試験導入、LEVへの積極的置き換えを実施します。

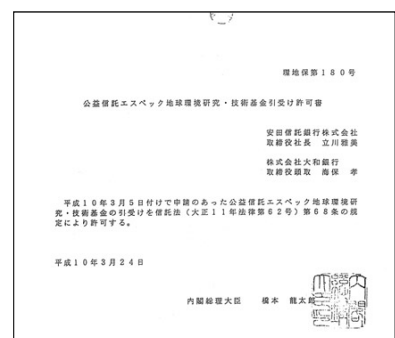
10. 社会貢献

社会に貢献できること、エスベックグループは考えています。「環境」の重要性・大切さを知っていただく。環境保全・改善を支援させていただく。大きなことはできませんが、継続していきます。それが、企業としての存在意義と考えます。

エスベック地球環境研究・技術基金

タバイエスベック株式会社は1997年に創業50周年を迎えることができました。これを機に自らの社会的責任を全うする事業として、公益信託「エスベック地球環境研究・技術基金」を設置。

3,000万円の予算を計上、地球環境保全に関する調査研究や技術開発などに対して資金的援助を行っています。1998年、1999年で7団体に資金援助を決定。今後も継続して社会に貢献します。



授与式風景



審査風景

新エネルギー・太陽光発電の研究

タバイエスベック株式会社は、1995年、NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)から太陽光発電フィールドテスト事業の共同研究者として事業の委託を受けました。栃木県宇都宮市にある当社工場「宇都宮テクノコンプレックス」に太陽光発電施設を設置。太陽光発電による基礎データ採取などを実施しています。

また、この施設は工場への来客者・地域住民・近隣小中学校の見学などに、広く公開しています。環境の大切さを知っていただくひとつの機会として役立っています。

フューチャーラボ(展示館)の運営

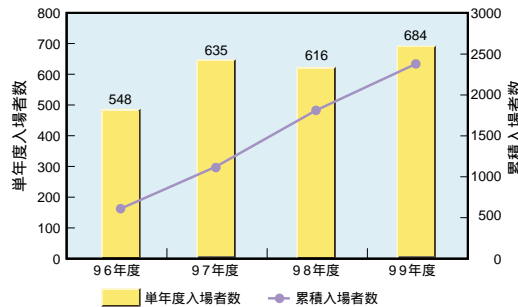
太陽光発電施設の隣には、UFOのような形をした「フューチャーラボ」を設置。環境の大切さを訴えるビデオの放映、パネル展示、環境関連文献、環境関連グッズの展示を行っています。実際に触っていただき・体験していただけます。この施設の運営は地元新聞をはじめ各種マスメディアに多く取り上げられ、見学者数も順調に増加しています。



太陽光発電施設



フューチャーラボ(展示館)



フューチャーラボ内部

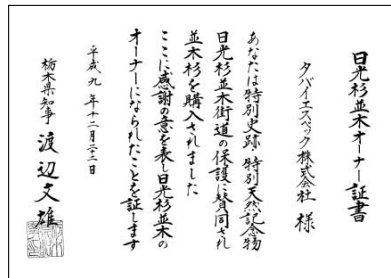
ソーラーカーレースへの参戦

エスベックグループは、ソーラーカーレースを応援します。1997年以来、高校生のソーラーカーレース参戦を援助。1999年夏、「'99ワールド・ソーラーカー・ラリー」において、タバイエスベックが技術・資金支援を行う、宇都宮工業高校が、フレッシュ部門優勝および技術賞を受賞。おおきな喜びとなりました。この支援活動を通じて、21世紀を担う若者たちに環境の大切さ・環境との共存を少しでも体験してもらい、未来に活かしてもらえれば、と考えています。これからも、社会への支援・援助を続けていきます。



植樹・緑の保護活動

立ち枯れが進む日光杉並木。要因に環境汚染が挙げられています。タバイエスペック株式会社は日光杉並木の保全活動に参画。資金(1,000万円)を投入、日光杉並木オーナーとなり、県はその資金運用益により、杉並木の保全活動にあたっています。



緑の植樹活動

タバイエスペック・福知山工場では、植樹を実施しています。1996年以来、毎年、50本。少ないかもしれませんが、着実に根づいています。木も、ころこにも。現在、市の公園、道路周辺にも、植樹を展開しています。この活動は、地元新聞にも大きく取り上げられています。また、周辺住民の方々には当社が育成した苗木を無償で提供しています。

海外での植樹活動

エスペックグループは、海外での植樹活動にも積極的に参加しています。当社の海外生産拠点がある中国で酸性雨の影響とやせた土地のため、森の破壊、砂漠化が進行しています。わずかな力ながら、わたしたち自らの手で、中国の大地に木を毎年、植えています。



中国での植樹風景



1.1.環境会計

エスペックグループでは、1999年、「環境保全コストの把握及び公表に関するガイドライン(中間とりまとめ)-環境庁」に準じて、環境会計を導入しました。1999年度のエスペックグループの環境会計は以下のとおりです。なお、2000年5月の「環境会計システムの確立に向けて(2000年報告)-環境庁」への対応は、2001年度より適合させる計画です。

環境保全コスト集計表

集計範囲：タバイエスペック株式会社、タバイエスペックサービス株式会社、株式会社 タバイ環境設備

集計期間：1999年4月1日～2000年3月31日

単 位：千円

環境保全コストの分類		主な取組の内容及びその効果	投資額	費用総額
1)環境負荷低減に直接的に要したコスト(直接環境負荷低減コスト)			11,057	38,000
内 訳	公害防止コスト	排気ガス処理装置の設置など	2,890	6,058
	地球環境保全コスト	電力監視システムの設置と運用など	8,167	8,388
	産業廃棄物及び事業系一般廃棄物の処理・リサイクルコスト	外部業者へのリサイクル委託など	—	23,554
2)環境負荷低減に間接的に要したコスト(環境に係る管理的コスト)		環境マネジメントシステム維持審査、更新審査および日常の環境マネジメント活動など	—	65,607
3)生産、販売した製品等の使用、廃棄に伴う環境負荷低減のためのコスト		リサイクル事例の調査、監督官庁への訪問、定例会議など	—	560
4)環境負荷低減のための研究・開発コスト(環境R&Dコスト)		HFC対応技術の開発、緑化技術の実証研究など	—	236,301
5)環境負荷低減のための社会的取組に関するコスト(環境関連社会的取組コスト)		展示館による啓発活動、環境マネジメントレポートの発行など	—	14,667
6)その他環境保全に関連したコスト			—	—
合計			11,057	355,135

項目	内容等	金額
当該期間の設備投資額の総額		482,435
当該期間の研究・開発投資額の総額		1,194,108
1)の に係る有価物等の売却益		204
3)に係る有価物等の売却益		—

1.2.環境負荷量

エスペックグループでは、法規制等の要求事項に関し自主管理基準を設定するとともに、測定・監視周期を増やす等を行い、自主管理の維持向上に努めています。

水質管理

	項目	法規制値	市町村条例	地区協定	自主基準	年平均	最大値	最小値
福知山工場	水温	45 未満	—	45 以下	30 以下	19.0	27.8	7.8
	pH	5.0～9.0	—	5.7～8.6	6.4～8.0	7.4	8.0	6.6
	COD	—	—	300mg/l以下	40mg/l以下	36.4	71	11
	SS	600mg/l以下	—	300mg/l以下	80mg/l以下	34.6	93	3
	n-ヘキサン	5mg/l以下	—	5mg/l以下	4mg/l以下	1.1	3	0.5
	全クロム	2mg/l以下	—	1mg/l以下	0.2mg/l以下	0.01	< 0.01	< 0.01
	D-Fe	10mg/l以下	—	5mg/l以下	1mg/l以下	0.03	0.06	< 0.01
D-Mn	10mg/l以下	—	5mg/l以下	1mg/l以下	0.02	0.04	< 0.01	
宇都宮テクノコンプレックス	水温	45 未満	40 未満	—	35 以下	21	30	11.5
	pH	5.8～8.6	5.8～8.6	5.8～8.6	6.1～7.9	6.33	7.2	5.8
	BOD	120mg/l以下	20mg/l以下	20mg/l以下	10mg/l以下	2.47	9.4	0.5
	COD	120mg/l以下	20mg/l以下	20mg/l以下	18mg/l以下	10.8	18	2.8
	SS	150mg/l以下	40mg/l以下	40mg/l以下	20mg/l以下	1.67	5	1
タバイエスペックサービス	pH	(規制対象外)	(規制対象外)	(規制対象外)	—	7.3	7.9	5.8
	COD				—	68	110	34
	SS				—	99	130	99
	n-ヘキサン				—	1.1	2.3	0.5
	鉛				—	0.02	0.04	0.01
タバイ環境設備	水温	45 未満	45 未満	—	35 未満	20.5	29.0	8.0
	pH	5.0～9.0	5.0～9.0	—	6.1～8.3	7.1	7.5	6.7
	BOD	600mg/l以下	600mg/l以下	—	200mg/l以下	49	150	0.6
	COD	—	—	—	200mg/l以下	36	79	3.4
	SS	600mg/l以下	600mg/l以下	—	200mg/l以下	24	41	1
	n-ヘキサン	5mg/l以下	5mg/l以下	—	4mg/l以下	1.1	2.3	0.5

騒音

昼間	要求事項	規制値	自主基準	最大値
福知山工場	市協定	70	65	59
宇都宮テクノコンプレックス	市協定	65	—	55
タバイ環境設備	市協定	70	68	60.5
夜間	要求事項	規制値	自主基準	最大値
福知山工場	市協定	55	50	49
宇都宮テクノコンプレックス	市協定	50	—	45
タバイ環境設備	市協定	60	58	51

単位:(dB)

1.3. エスペックグループの環境年表

'60年代	1969年	・恒温恒湿器に複数の冷凍機を搭載し、省エネを実現
'70年代	1974年	・無公害工業団地・長田野工業団地に工場建設
'80年代	1983年	・省エネを基本設計思想とした本社ビルを建設
	1987年	・国際地球科学会議・テレビシンポジウムを協賛 ・民間と植物工場の業務提携
	1988年	・会社組織に植物工場プロジェクトを設置
'90年代	1990年	・国際花と緑の博覧会の芙蓉ミュージカルシアターと三和みどり館に協賛
	1991年	・株式会社新産業創造センター(TRT)の設立に参加
	1992年	・会社組織にフロン対策室を設置するとともに、CFCフロン全廃のための製品開発・技術開発に着手 ・代替フロンのプリント基板洗浄剤に転換完了 ・代替フロンの断熱材発泡に転換完了 ・新産業創造センター(TRT)内に「鳥取アグリラボ」を開設
	1993年	・コンテナ式植物工場が植物工場学会より開発賞を受賞
	1994年	・福知山工場が省エネルギーの電気部門において近畿通産局長賞を受賞 ・代替フロンのフロンに全製品転換完了
	1995年	・環境管理部創設 ・NEDOとの太陽光発電フィールドテストを開始
	1996年	・エスペックグループ環境基本方針を制定 ・京都環境計量センターを開設、環境計量証明事業を開始 ・宇都宮テクノコンプレックス内にフューチャーラボ竣工 ・ISO14001認証取得(福知山工場)
	1997年	・ISO14001認証取得(宇都宮テクノコンプレックス) ・ISO14001認証取得(タバイエスペックサービス本社事業所) ・エコシステム事業推進室を設置 ・エスペックグループ環境強化週間の運営開始 ・中国での合弁会社の設置による浄水器の開発・販売
	1998年	・公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」を設置 ・ISO14001認証取得(タバイ環境設備大東事業所) ・環境報告書「エスペック環境マネジメントレポート」(1997年度報告)発行 ・エスペック環境管理セミナーを開催。約200社受講
	1999年	・プラチナスKシリーズ3機種が「第19回優秀省エネルギー機器表彰」を受賞 ・環境報告書「エスペック環境マネジメントレポート」(1998年度報告)発行 ・環境会計導入 ・仕入先への環境管理活動指導・支援開始 ・エスペック環境管理セミナーを開催。約100社受講 ・「グリーン調達」を構築開始

アンケートにご協力ください

Q1 本レポートにてエスペックグループの環境問題への取り組みについて、どのように感じられましたか。
(ひとつだけ 印をつけてください)

1. かなり評価できる 2. まあ評価できる 3. あまり評価できない 4. まったく評価できない

上記のように感じられたのは、どのような理由からですか。具体的にお聞かせください。

[]

Q2 本レポートの内容のうち、特に印象に残ったこと・参考になったと思われる項目はございますか。
(いくつでも 印をつけてください)

- | | | |
|------------------------|---------------------------|----------------------|
| (第1章. 結言) | 7. 教育の現状と計画、資格 | 7. 環境改善事業への取り組み |
| 1. 経営者の声明 | 8. 環境マネジメントシステム監査 | 8. 広報・啓発・コミュニケーション活動 |
| 2. 経営理念 | 9. 緊急事態への準備 | 9. オフィスにおける環境保全活動 |
| (第2章. 環境マネジメントシステム) | (第3章. 環境パフォーマンス) | 10. 社会貢献 |
| 1. 環境マネジメントシステム全般 | 1. 物質フロー | 11. 環境会計 |
| 2. 環境マネジメント体制 | 2. 主要項目推移 | 12. 環境負荷量 |
| 3. 事業活動と製品・サービスの環境影響評価 | 3. 製品への取り組み(開発設計段階での取り組み) | 13. エスペックグループの環境年表 |
| 4. 法規制およびその他の要求事項 | 4. 生産活動・物流への取り組み | |
| 5. 目標 | 5. サービスへの取り組み | |
| 6. 取引先への対応 | 6. 製品リサイクルへの取り組み | |

具体的にどんなことが印象に残ったかお聞かせください。

[]

Q3 本レポートの内容で、もっと詳しく知りたいと思われた項目がありましたか。
上記Q2の項目からいくつでも選んでお聞かせください。

[]

Q4 環境問題への取り組みについて、エスペックグループになにを期待されますか。具体的にお聞かせください。

[]

Q5 恐れいりますが、あなたが本レポートをお知りになったきっかけをお聞かせください。
(印をつけてください)

1. タバイエスペックの営業担当 2. タバイエスペックの代行店・販売店 3. タバイエスペックのホームページ
4. 環境管理セミナーなどで聞いた 5. 展示会 6. その他 (具体的に:)

アンケートにご回答いただき、誠にありがとうございました。差しつかえなければ、あなたご自身についてお聞かせください。

お名前	(フリガナ)	性別	1. 男性 2. 女性	ご年齢	歳
ご住所	〒				
ご職業 勤務先		部署・ 役職名		エスペック 製品の ご利用	1. 使用している 2. 使用していない

編 集 後 記

エスベックグループの環境報告書として3冊めにあたる、「環境マネジメントレポート2000」。いかがだったでしょうか？

今回は、環境管理部自ら制作にあたりましたが、環境庁のガイドラインやGRIを意識しながら、不慣れな中、定めた期限内に発行することができました。旧版と比較して、改善した項目は以下のとおりです。

項 目	改 善 点	
企業概要、環境マネジメントレポート対象範囲	・企業概要説明の具体化(業態説明、売上高推移など) ・環境報告の対象範囲の明確化(対象年度、地域範囲など)	
第1章 緒 言	・環境管理担当役員の緒言の追加 ・企業の経営理念概略の追加	
第2章 環境 マネジ メント システ ム	1.環境マネジメントシステム全般	・当社グループの環境マネジメント全般の「しくみ」を掲載
	2 環境マネジメント体制	・環境管理連絡協議会の概略を追記 ・全社環境基本方針(改訂版)の複写を掲載
	3 事業活動と製品・サービスの環境影響評価	・当社グループの環境影響評価概略の掲載
	4 法規制およびその他の要求事項	・法規制などの入手に関する概略の掲載
	5 目標	・全社環境マネジメント目標の掲載。2000年4月において第2期全社環境マネジメント目標が制定されたため、両方を掲載。
	6 取引先への対応	・製品の回収・リサイクルの取り組み事例の掲載
	7 教育の現状と計画、資格	・当社グループの環境に関する教育のしくみ・種類の掲載。 有資格者リストは、継続掲載。
	8 環境マネジメントシステム監査	・内部環境監査の概略の掲載 ・外部審査結果の概略の掲載
	9 緊急事態への準備	・緊急事態への準備事例の概略掲載 ・緊急事態の発生状況、製品に関する問題点の発生状況の掲載
第3章 環境 ハプ フォー マンス	1.物質フロー	・(継続掲載)
	2.主要項目推移	・(継続掲載)
	3.製品への取り組み	・製品への取り組みの詳細を掲載
	4.生産活動・物流への取り組み	・工場での取り組みの具体例を掲載
	5.サービスへの取り組み	・サービス行為での取り組み具体例の掲載
	6.製品リサイクルへの取り組み	・製品の回収・リサイクルの取り組み事例の掲載
	7.環境改善事業への取り組み	・環境改善事業の具体例を掲載
	8.広報・啓発・コミュニケーション活動	・エスベック環境管理セミナー(継続掲載) ・地域清掃(継続掲載) ・外部コミュニケーション件数のグラフを掲載
	9.オフィスにおける環境保全活動	・事務所での環境保全活動の事例を掲載
	10.社会貢献	・フューチャラボによる社会貢献事例の掲載 ・ソーラーカーレースの支援事例の掲載 ・植樹活動の事例掲載
	11.環境会計	・環境庁ガイドライン(平成11年度中間とりまとめに準じる)による環境会計の公表
	12.環境負荷量	・昨年までの水質管理データに加えて、騒音管理データも掲載
	13.環境年表	・(継続掲載)
アンケート	・(継続掲載)	
編集後記	・旧版と比較しての改善点の掲載	
ページ数	・20ページ 36ページ	
その他	・古紙配合率100%の紙を使用 ・大豆油インクの使用	

この環境報告書に関するご意見、ご感想、ご質問などにつきましては、下記までご連絡願います。

タバイエスベック株式会社
 環境管理部 EM推進グループ リーダ 余田英則(よでんひでのり)
 〒620-0853 京都府福知山市長田野町1-7 電話:0773-27-3131 FAX:0773-27-1132
 E-MAIL:h-yoden@espec.co.jp



タハイ エスペック 株式会社

本 社 大阪市北区天神橋3-5-6 〒530-8550
☎(06)6358-4741 (代表)

環 境 管 理 部 京都府福知山市長田野町1-7 〒620-0853
☎0773(27)-3131 (代表)



環境マネジメントレポート2000は、主に2000年3月までの取り組みをご報告させていただきました。
本レポートについてお問い合わせは、環境管理部へお願いいたします。
本報告書はリサイクル紙を使用しています。

2000. 6 第1刷 1,000
2000. 7 第2刷 5,000
2000. 8 第3刷 1,000
2000. 9 第4刷 2,000
2000.11 第5刷 5,000
2001. 5 第6刷 1,500